

論文審査の結果の要旨

報 告 番 号	甲 第 1283 号	氏 名	上野 晃弘
論 文 審 査 担 当 者	主 査 小泉 知展 副 査 田中 直樹 ・ 中沢 洋三		
<p>(論文審査の結果の要旨)</p> <p>全身性 AL アミロイドーシスは骨髄中の異常形質細胞が産生するモノクローナルな免疫グロブリン軽鎖がアミロイド線維となって全身の重要臓器へ沈着して機能障害を呈する予後不良の疾患である。近年、移植治療やプロテアソーム阻害薬によって治療成績が向上したが、一定数の患者は初期治療に抵抗性であったり治療後に再発したりするため、それらの患者に対する適切な救援療法の検討が問題となっていた。本研究では、初期治療に抵抗性であるか、あるいは初期治療後に再発が見られた AL アミロイドーシス患者に対するレナリドミド-デキサメサゾン療法 (Rd 療法) の治療経過を検討し、救援療法選択肢としての Rd 療法の安全性と有効性を検討した。2001 年 9 月から 2019 年 12 月までに当科で診療された 262 名の AL アミロイドーシス患者の中から、再発/難治性患者 (すなわち 1 つ以上の先行レジメン使用後に救援療法として Rd 療法が使用された患者) を後方視的に抽出し、患者背景と Rd 療法の安全性、治療効果を解析し、過去の Rd 療法の報告と比較検討した。</p> <p>その結果、上野は次の結論を得た。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 対象患者 22 名のうち、14 名 (64%) で完全奏功が得られた。2. Grade3 以上の有害事象は 8 名 (36.4%) に見られ、有害事象に起因する治療中断は 4 名 (18%) に観察されたが治療関連死亡は 0 名 (0%) であった。3. これらの成績は、安全性、有効性のいずれにおいても過去の報告と同等かより良い結果であった。多くの過去の報告では除外されていた病的遊離軽鎖 (iFLC) が低値の患者が多く含まれていた患者背景や、レナリドミドを少量開始漸増としたレジメンの工夫 (過去の報告では全て高用量開始漸減) などが良好な成績の要因と推察された。 <p>これらの結果より、Rd 療法は再発/難治性の全身性 AL アミロイドーシス患者に対する救援療法選択肢として安全で有効であると考えられた。よって、主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			